

今こそ、平和を語ろう

ジェレミー・コービン(前英労働党首)

[Looking Over the Horizon at Nonalignment and Peace \(thetricontinental.org\)](https://thetricontinental.org)

ウクライナの街に降り注ぐロシアの砲弾、イエメンでの不安定な停戦、エルサレムで礼拝中のパレスチナ人への襲撃、その他世界各地で多くの紛争がおきている。その中で、平和について語ることは不適切だと思う人もいるかもしれない。

しかし、戦争が起こっているときこそ、平和について語るべきだ。これ以上人命が失われたり、何百万人もの人々が世界のどこかに避難せざるを得なくなったりするのを防ぐには、どうすればよいのだろうか。国連がようやく、プーチン大統領とゼレンスキー大統領との直接会談を求めるグテーレス事務総長の要請を実行に移した。これは歓迎すべきことである。

ウクライナでの即時停戦、それに続くロシア軍の撤退、そして将来の安全保障に関するロシアとウクライナの間の合意が必要である。すべての戦争は、ある種の交渉で終わる。なぜ今ではないのだろうか。

交渉による終結は、いつかは起こることだと誰もが知っている。それを遅らせる理由はない。爆撃と殺戮で、より多くの難民、より多くの死者がで、ウクライナとロシアの両方で家族が悲嘆に暮れるのだ。それなのに、ほとんどのヨーロッパ諸国は、平和を促す代わりに、この時とばかりに武器の供給を増やし、戦争マシンを送り込み、兵器メーカーの株価を上昇させている。

今こそ、武力紛争や権利の濫用、あるいはグローバル経済システムの結果、多くの人が直面している貧困のために、深い苦悩にある人々に対して、我々の人間性、あるいはその欠如について話すべき時なのだ。

ウクライナの人口の約10%が国外に逃れ、トラウマ、喪失感、恐怖に苦しんでいる。ヨーロッパのほとんどの国は、ウクライナ難民を支援してきた。英国政府もそのように装っているが、ウクライナ人を内務省の迷宮と悪夢のような官僚主義に意図的な陥れ、抑止している。むしろ、ウクライナ人難民は支援され、歓迎されるべきなのだ。一般市民の寛大な心は、私たちの人間性の最良の部分を示している。

しかし、アフガニスタン、イラク、リビア、イエメンなど、英国が直接責任を負う戦争からの絶望的な難民の扱いでは、話は痛々しいほど違って来る。

絶望のあまり、危険な小型船で英仏海峡を渡ろうとする人びとは、同情と支援に値する。ところが内務省の計画は、彼らをルワンダに移送することだ。もし我々が人道と難民の権利を信じるのであれば、難民は皆平等にまともな扱いを受け、社会に貢献することを許されるべきだ。犯罪者として投獄されるべきではない。もし保守党が業務委託の間に合わせですまそうとしたら、他のヨーロッパ諸国も同じことをするだろう。デンマーク政府はすでに、この残酷で実行不可能な提案を熱心に語っている。

この戦争が私たちの社会の政治と希望に与える影響は、特に世界の諸機関にとって大きなものになるだろう。国連は第二次世界大戦後、"戦争の惨禍から後世の人々を救う"ために設立された。それ以来、世界が耐え忍び、何百万人もの命を奪った紛争や代理戦争は、枚挙にいとまがない。朝鮮、ベトナム、イラン・イラク、ユーゴスラビア、アフガニスタン、イラク、リビア、シリア、インド・パキスタン、コンゴ民主共和国、その他多くの紛争は、主流のメディアではほとんど報道されていない。たぶんケニアのように植民地支配に対する紛争だったためであろう。

ウクライナ紛争では、国連に大きな疑問が投げかけられる。ロシアが残忍かつ不法にウクライナに侵攻したとき、国連は事務総長をモスクワに派遣して停戦を求めるべきではなかったのか。国連はあまりにも行動が遅く、国家間システムの多くが交渉ではなく、エスカレーションを推し進めた。

平和を支えるより効果的で積極的な国際機関を求める声は、2022年4月、スペインの左翼政党ポデモスが主催した会議で力強く発せられた。左翼活動家組織プログレッシブ・インターナショナルが始めた対話を受けたものだった。発言した17人の誰もが戦争と占領を非難し、ウクライナとロシアの人々のために停戦と平和の未来を訴えた。参加者は、この紛争がエスカレートする危険性と、新たな冷戦がもたらすさらなる熱い戦争と暴力を知っていた。世界には発射準備中の核弾頭が1,800個もある。一つの「戦術」兵器で数十万人を殺すことができる。核爆弾は数百万人を殺すだろう。封じ込めることも、その効果を限定することもできないのだ。

2022年6月、ウィーンでは、核兵器禁止条約をめぐる一連の主要な平和イベントが開かれた。が、この条約は、核兵器保有宣言国が反対しているが、国連総会が支持し、核兵器のない未来に向けた最高の希望と機会を与えてくれるものだ。このチャンスは両手でつかむべきである。

戦時中に平和を論じることは、弱さの表れだと言う人がいるが、その逆である。アフガニスタン、イラク、リビア、シリア、イエメン、その他何十もの紛争に加わった政府を止めたのは、世界中の平和を訴える人々の勇気である。

平和とは、単に戦争がないことではなく、真の安全保障である。食べることができ、子どもたちが面倒をみてもらえ、教育を受け、必要なときに医療サービスが受けられるという安心感だ。ウクライナでの戦争の後遺症は、さらに何百万人もの人々からそれらを奪うだろう。

一方、多くの国々が武器支出を増やし、より危険な兵器に資源を投入している。米国は過去最大の国防予算を承認したばかりだ。こうした兵器に使われる資源は、すべて保健、教育、住宅、環境保護に使われない資源だ。

今は、危うく危険な時代なのだ。恐怖が繰り返られるのを見守り、そして将来さらなる紛争に備えるだけでは、気候の危機、貧困の危機、食糧供給への対処を確実

にすることはできない。すべての人のための平和、安全、正義のために別の道を切り開くことができる運動を構築し、支えることができるかどうかは、私たちすべてにかかっている。(了)